

【奨 励 賞】



氏 名 NGUYEN THI THU HOAI
(グエン ティ トゥ ホアイ)

国・地域 ベトナム 

在日期間 1 年半

学 校 九州日本語学校

タイトル : 私が感じた日本の色

日本に来る前、日本に関する私の知識と言えば、大学の授業で聞いた日本文化の話とお寿司などの日本食、それに可愛いキャラクターの話ぐらいでした。でも、日本に来て生活するようになると、経験を通じて私が知らなかった日本をたくさん知るようになりました。

ところで、私のように日本に住んでいる外国人の皆さんは、日本といえばどんな色を思い浮かべるでしょうか。

一年半前、私は夢いっぱいの気持ちで日本に来た時のことを、今でも忘れません。その時に感じた日本の色は薔薇色、つまり幸せいっぱいの色でした。でも、実際に日本に来てからは、薔薇色ばかりではありませんでした。明るい色も暗い色も、本当にたくさんあることに気がきました。

まず、私にとって明るい色とは、優しさが感じられる色のことです。例えば日本には優しく笑顔が素敵なお年寄りがたくさんいます。私が日本に来て、はじめて日本のスーパーに入った時、あるおじいさんがニコニコして私に声をかけてきました。「こんにちは！外国人ですか？」 「はい、ベトナムの留学生です。昨日日本に来たばかりです。」 「そう、がんばってねえ！」 短い会話でしたが、私は思わず笑顔になりました。また、ある日、アルバイトの帰りにコンビニに寄った時、急に雨が降り出したことがありました。その時突然、あるおばあさんが、傘がなくて困っている私に気づき、傘を持ってきてくれました。そして私に分かりやすいように、ゆっくりと話してくれました。「風邪をひかないように、この傘を使ってね。」と。その夏の雨は、暖かい人間の愛が感じられる雨でした。日本に来る前に本やインターネットで知った日本人のイメージは冷たく、あまり感情がないというものでした。でも、それは違っていたと、実際の経験から感じました。

次に私が感じる日本の色は愛の色です。私は老夫婦が手をつないで通りを歩いたり、電車を降りるときお爺さんがおばあさんを支えたりする姿を見ました。それを見て、この人たちの愛は静かで、穏やかで、何十年も続いているのだ、と感じました。また、週末の公園で遊んでいる子どもをやさしく見守っている若い夫婦の姿も目にしました。私の見た日本人は暖かい愛の色にあふれていました。

さて、今度は、私にとっての暗い色という涙の色です。日本はいつも私に成長することを教えてくれます。私の言いたいことが相手に上手く伝わらないとき、私はとてもがっかりしてしまいます。そんなとき、悔しさの涙がこぼれてきます。家族も友達もそばにいないしアルバイトはとても大変で厳しいこともあるし、何より勉強も大変でプレッシャーになります。先が見えない未来が心配で眠れない夜もあります。暗い夜、よくアルバイト帰りのバスの中でこのような悔しさや寂しさの涙が突然流れてきます。

このように日本はほんとうにたくさん色が感じられます。明るい色に暗い色、愛の色、夢と希望の色、寂しさや悔しさといった涙の色などです。それらの色の全てが私の目に美しい日本を描きます。

日本に住むことで私は気付きました。日本に来る前は明るい色だけで生活できたらいいと思っていました。でも、私が経験した暗い色も、私の日本での生活を充実させるために必要なものなのだ。色は多ければ多いほど充実した生活を現わしているのだと思います。これからの生活は、私にどんな色を見させてくれるのか、今はそれが楽しみです。みなさんが感じる日本の色はどんな色ですか？

ご清聴ありがとうございました。